

鶴岡地域審議会 提言書

平成25年12月16日

はじめに

東北一広い面積を持つ鶴岡市の誕生から8年が経過しておりますが、鶴岡市総合計画とまちづくりの柱となる「鶴岡ルネサンス宣言」に基づく施策の推進に御尽力され、鶴岡市のまちづくりが着実に進められておりますことに、心より敬意を表するものです。

さて、全国的に人口減少の進行が急速に進んでおります。ここ鶴岡市においても、このまま何も対策を講じなければ人口減少はさらに進行し、地域の担い手不足や地域コミュニティ活動の停滞を招き、労働力の減少によって地域の経済の活力が低下するなど、さらに地域社会に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

このようなことから、鶴岡地域審議会では、この人口減少問題をいかに解決するかに取り組むこととし、地域コミュニティと産業経済の二つの分野から、どのような現状と課題があるかを出し合いながら、それを解決するための方策を、分科会に分かれて昨年度から協議を重ねてまいりました。

「地域コミュニティ分科会」では、住んでいる者にとって、住みよい、住み続けたいと思える魅力ある地域であれば、人口の減少を抑えることにつながるのではないかという視点から、『魅力のある地域づくり』について、一方、「産業経済分科会」では、地域経済や産業を活性化させるためにも、地域外から人を呼び込み人口を増やしていく必要があることから、『定住・移住人口と交流人口の拡大に向けて』、それぞれに活発な話し合いを行い、このほど提言書としてまとめることができました。

今後は、この提言内容が、鶴岡市のまちづくりの具体的な施策として取組みが進められ、鶴岡の人口減少に歯止めをかけ地域振興に寄与するとともに、着実に実現されていくことを切に願って、ここに鶴岡地域審議会の提言といたします。

平成 25 年 12 月 16 日

鶴岡市長 榎本政規 様

鶴岡地域審議会会長 早坂 剛

目 次

I 地域振興に関する提言

提言1 魅力ある地域づくりの推進

～人口減少を抑えるために、住みよい、住み続けたい鶴岡へ～

1. 活力ある地域としての町内会や住民会等が良く機能する体制づくり — 1
2. 健やかに、生き生きとした家庭や世帯を増やすために、
子育てにやさしいまちへ ————— 2
3. 安心して安全に暮らせる魅力ある地域として ----- 3
4. 地域の情報の発信の強化 ----- 5

提言2 地域経済や産業の活性化のための定住・交流人口の拡大

～住んでみたい鶴岡、行ってみたい鶴岡へ～

1. 産業や雇用を創出して働く場の確保と、
若者の定住やIターン、Uターン促進への環境整備 ----- 6
2. 定住・移住促進のための魅力の発信と交流人口の拡大 ----- 7
3. 定住・移住・交流人口拡大に向けた、空き家等の利活用促進 -- 8

II 鶴岡地域審議会の開催状況 ----- 9

III 鶴岡地域審議会委員名簿 ----- 10

I 地域振興に関する提言

提言1 魅力ある地域づくりの推進

～人口減少を抑えるために 住みよい、住み続けたい鶴岡へ～

1. 活力ある地域としての町内会や自治会等が良く機能する体制づくり

【現状と課題】

地域コミュニティでは、人口減少や少子高齢化の進行による担い手不足、役員等の固定化と、核家族化やライフスタイル・価値観の多様化により帰属意識が薄れてきて、地域の中の各団体や組織の維持が難しくなっている。

その中で、町内会や自治会等では、一人の役員に負担がかからないよう役割分担したり、地域の中の団体や組織が一同に集まって、今後の運営の話し合いをしたりするなど、いろいろ工夫はしているが、活動の担い手を育てないと地域の活動が停滞してしまう。

それから、市街地は人は多いが地域の中に出てこない、郊外地は人は少ないが地域との関わりは強いといったように、地域で実態も状況も違うが、多くの人から地域に関わってもらおうための取組みが課題になっている。

【課題解決に向けた提言】

●地域づくりへの若者の参加促進と担い手確保

地域活動を次の世代につなげていくためにも、学生や若い世代から地域づくりや地域の活動に参加してもらおう仕組みや、活躍できる機会をつくり、人材育成を進めていく必要がある。

<具体的方策>

- ・地域の活動に、地元の大学生や社会人1年目から3年目くらいの若い世代が参加する仕組みを構築する。
- ・若い世代が地域づくりについて話せる場として、インターネットやソーシャルネットワークワーキングサービス（SNS）を活用した仕組みについて検討する。
- ・若い世代が企画した事業や提案を、コンテストのような形で発表できるように支援策を講じる。

●住民の地域への理解と関心を高める取組み

町内会や自治会等の活動で役割や立場がなくても、地域に関われるきっかけづくりや、地域内の連携協働の仕組みづくりを進めるとともに、地域間交流を通じて、自分の住んでいる地域の魅力を知ってもらい関心をもってもらおう取組みを行う。

<具体的方策>

- ・学区や地区を越えて町内会や自治会、地域の多様な団体等が交流したり、

一緒に事業に取り組めるような場や機会を創出する。

- ・町内会や自治会等が実施した事業についての発表会を開催し、意見交換しながら、お互いに地域のことを知る機会の創出と支援を行う。
- ・地区担当職員と連携し、地域活動に参加しやすい仕組みや人材育成に取り組む。

2. 健やかに、生き生きとした家庭や世帯を増やすために、子育てにやさしいまちへ ～結婚活動と若い世代の鶴岡への定着～

(1) 結婚に対する意識の醸成と出会いの場の支援

【現状と課題】

少子化の進行を食い止めるには、出生数を増やすことだが、結婚すべき年齢層が結婚していないことが問題である。市では「出会いの場」として婚活に取り組んでいるし、自治会や団体等でも工夫をしながら婚活を実施しているが、いろいろな場面をもっと活用して、参加しやすい場を設定する必要がある。

一方で、市が実施している婚活の成果が分からなかったり、つるおか婚活支援ネットワークがあるが、登録団体数が少ないと感じる。婚活で成婚した実績などを含めて、市が取り組んでいる婚活事業を広く知ってもらうための活動や、積極的に情報発信する必要がある。

【課題解決に向けた提言】

気軽に参加できる出会いの場をもっと創出し、婚活が当たり前になるような取り組みと、結婚への意識を醸成する取り組みをする。

婚活事業のPRをして、鶴岡の魅力を知ってもらい鶴岡に来てもらう。そして定着してもらうことに結びつける取り組みを進める。

<具体的方策>

- ・結婚に向けての背中を押すために、若い既婚者と未婚者との交流と学習の機会を創出する。
- ・同窓会や同級会は、気軽にどの年代でも参加する土壌がある。学校の先生の力を借りたりしながら、出会いの場として、同窓会等を活用した婚活の実施に支援する。
- ・つるおか婚活支援ネットワークのPRを図り、登録について企業等に働きかけを行い、登録団体数を増やす。
- ・婚活をきっかけに結婚した場合に祝う仕組みを検討する

(2) 子育てが安心して行える環境の整備

【現状と課題】

若い人や子育て世代の定着には、雇用の場の確保もそうだが、共働きの人が働きやすい、仕事と子育ての両立ができる支援が必要である。特に小学校

に入るまでの子育て支援が望まれる。

核家族化の進行やひとり親家庭が増えてきている中で、昔のように地域で大人が子どもにいろいろ教えたりするなど、地域での子育てへの関わりが減ってきている。また、鶴岡の良さ、伝統、文化などを子ども達に伝えることが難しくなっている。

子育て支援の充実には、小中学校の教育に求められる役割も大きくなっていくので、社会状況の変化に対応していく必要がある。

【課題解決に向けた提言】

子育て環境の向上を図るには、日本一子育てしやすい鶴岡にするという目標を掲げて市の施策を充実させる。第3子以降の保育料や未就学児の医療費無料化などされているが、子育てにかかる経済的負担の軽減を図ることに加え、女性が働きやすいよう職場環境や活躍の場の整備を行う。

核家族化が進む中で、子どもの預け先も含め、地域も一緒になって子どもを育て、支える取組みを支援していく。

地元への誇りと愛郷心、豊かな心を持つ子どもに育てるとともに、グローバル化に対応した教育内容を充実させる。

＜具体的方策＞

- ・子育ての負担を軽減するため、子どもが2人以上いる家庭に対しての公的援助や支援の検討と、サポート体制の構築を図る。
- ・女性の管理職が多くなれば、女性が活躍できる職場、働きやすい職場につながるので、市が率先して女性の管理職登用に取組む。
- ・高齢者や子育ての先輩、町内会や自治会など、地域の中のいろいろな人達が主体となって子育てする取組みに支援する。
- ・幼児保育の一元化としての「認定こども園」の検討と、幼稚園・保育園と児童館を組み合わせるなど、未就学児と小学生を一緒に預かる場の仕組みや体制の検討を行う。
- ・子どもの頃から鶴岡の自然に親しむことや、本物を見たり、聞いたりする機会、鶴岡の産業を体験させたりする機会などを創出する。
- ・少子化で児童生徒数が減少していく中で、小中一貫した教育やグローバル化に対応できる英語教育など、魅力ある学校づくりを推進する。

3. 安心に安全に暮らせる魅力ある地域として

(1) 高齢者が生きがいをもって充実した生活ができる環境整備

【現状と課題】

子育てが終わったあとも、安心して長生きできることが大事であり、元気な高齢者の割合を高めて健康寿命を延ばしていくことが必要である。それから、高齢者が今まで培ってきた知識や経験を活かし、地域の中で活躍すれば、地域づくりにも高齢者の生きがいづくりにもつながるので、地域と関わりを

持って社会参加できるよう支援する必要がある。

【課題解決に向けた提言】

健康を保持することは、高齢者本人もさることながら、医療や介護に要する経費を抑えることにつながるし、子ども達や若い世代を支援する力にもつながるので、普段から気軽に体を動かすことができる機会や場の提供を行う。

高齢者の生きがいと社会参加の場として、世代間交流を推進する。

<具体的方策>

- ・高齢者が元気で活動できるように、「にこふる」やコミセン、市の体育施設、総合型スポーツクラブなどを利用し、健康づくりに努める。
- ・町内会や自治会にいる体育協会の役員を活用しながら、地域の行事などいろいろな場面に、運動や体を動かすことを取り入れる仕組みを構築する。
- ・高齢者が気軽に安心してスポーツ活動ができたり、場所を安く借りられたりするなど、環境や条件の整備を検討する。
- ・世代間交流として、小学校での福祉教育の取り組みや、高齢者が地域の歴史や行事を子ども達に伝えるような場を設ける。

(2) 安心・安全な地域であるための地域の支援体制と防災力の向上

【現状と課題】

隣組単位や隣近所での見守り活動や支え合いは、町内会や自治会等で、見守り安心カードや防災福祉世帯票、福祉防災マップ、福祉協力員や福祉員など、それぞれが工夫をしながら行っている。

その中で、一人暮らしの高齢者に日中にいざ何かあった時の連絡先を聞くと、同年代の高齢者の名前があがる。一人暮らしや二人暮らし、80歳以上の二人暮らしの方など、非常時にどのように救うことができるかを考えていかなければならないが、個人情報保護の関係で、緊急の連絡先などの届出を出してもらうことが難しい状況がある。

防災は、学区では自主防災組織が、郊外地では消防団がしっかりした自主防災活動をしているし、消防団、町内会や自治会、婦人防火クラブなどが一緒になって防災訓練を実施している。防災に強いまちにしたいとなった時には、人と人との関わりが大事であり、人材育成が求められてくる。

【課題解決に向けた提言】

日常の見守りや災害時を含め、高齢者の情報の集め方や要援護支援に、個人情報保護が関わってくるので、取扱いや取り組み方法を検討する。

地域の防災力を高める取り組みとして、地域内で人材を発掘したり、将来の地域防災の担い手を育てることも必要である。

<具体的方策>

- ・高齢者の見守りや災害時の要援護者の確認など、地域コミュニティ内での個人情報の取扱いを検討する

- ・学校での防災学習や防災合宿などを通じて、防災意識を高めて、児童、生徒、学生達から将来の地域防災の担い手になってもらうようにする。

4. 地域の情報の発信の強化

【現状と課題】

市の広報が月1回の発行となり、以前より情報が得にくくなっていると感じるので、カバーする手立てが必要である。市はPRや情報発信がうまくとは言えないとも感じる。インターネット等のソーシャルメディアをうまく活用して、行政情報や市の魅力を発信する必要があるのではないかな。

また、水害やゲリラ豪雨の時、市のホームページを見ても状況が分からず、テレビのニュースや人づてに知るといった状況だった。

【課題解決に向けた提言】

広報をカバーする手立てとして市のホームページを充実させる。

情報発信ツールとしてフェイスブックなどを積極的に取り入れることが必要である。また、高齢者やインターネットを利用しない人を意識した情報発信に努める。

<具体的方策>

- ・市のホームページは、トップページや各課のページを写真やイラストも使いながら、見やすい使いやすい仕様にしていく。
- ・市の情報や市内外への魅力発信、災害時などの情報提供などに、フェイスブックの活用を検討する。
- ・市が発信する文書は、インターネットでも紙でも、情報を受ける側にとって分かりやすい、読みやすい、親しみやすい文書に心がける。

提言 2 地域経済や産業の活性化のための定住・交流人口の拡大 ～住んでみたい鶴岡、行ってみたい鶴岡へ～

1. 産業や雇用を創出して働く場の確保と、若者の定住やIターン、Uターン促進への環境整備

【現状と課題】

人口減少は、地域経済を始めあらゆることに影響を及ぼしてくるので、この人口減少を食い止めるために、定住人口、交流人口を増やしていく必要がある。その中でも、生産年齢人口の20歳代や30歳代の若い人たちの、どのように増やすかを考えていく必要がある。

それには、魅力ある仕事や産業、働く場をいかに安定的につくるか課題になってくる。また、地域の資源を産業として活かすことや、新しい産業の創出も考えなくてはならない。

また、一度県外に出た若者が戻って来られるようにすることや、今まで鶴岡に関わりを持っていなかった人をIターンとして受け入れること、新たに農業や漁業、林業などの地場産業に就業したい人の受け皿の整備が必要になってくる。

移住・定住をしたいと考えている人は、若者、子育て世代、退職した世代と様々で、若者は働く場、UターンやIターンの子育て世代には起業への支援、都会で退職した世代には雪などこちらでの暮しと、必要としている情報がそれぞれ違ってくる。支援内容がわかる資料や情報の提供、問い合わせに対応できる場が必要ではないか。

【課題解決に向けた提言】

産業と直結した雇用は定住に結びつくので、既存の産業または資源を活かしていくことに焦点を当てて雇用創出を進める。鶴岡にある伝統的な食と既存のものを組み合わせながら作り上げるというように、地域にある資源と資源、資源と人を結びつけることへの支援をする。

行政だけでなく、民間、市民が一体となって受け入れ体制づくりを進める。地域が支えていく、受け入れ体制が出来ているということの情報発信をする。

<具体的方策>

- ・UターンやIターン、移住を考えている人が、就業や起業をする時に希望の職業や職場へつなぐ仕組みの構築と、市と企業や団体が一体となって取組みを進める体制を構築する。
- ・地域に埋もれている人や、Iターン、Uターンとして外に出た人がノウハウを持ち帰って来られるように、地域と職や仕事のコーディネートをする人材を育成する。
- ・移住や、定住を考えている人が、問い合わせや相談等が一つのところで出来るよう窓口の設置を行う。その時に、UIJターン等で移住した人からアドバ

イザーになってもらう。

- ・移住した人が早く地元慣れてもらうためにも、こちらに移住し生活している人達とのつながりが持てるように、ネットワークの構築を図る。
- ・同窓会や同級会などはUターンなどのきっかけづくりとなるので、開催経費の支援を検討する
- ・鶴岡にある先端研の研究や技術を生かした職場を創出し、若い世代の働く場の確保に努める。
- ・企業や各団体、組織等の若い世代同士の横の連携や交流ができる仕組みを構築する。

2. 定住・移住促進のための魅力の発信と交流人口の拡大

【現状や課題】

鶴岡に来てもらう、住んでももらうには、外から人を呼び込むことが必要であるが、鶴岡の良さや魅力を多くの人に知ってもらうための情報発信が弱い。

住んでいる人が地域のことや魅力をよく知っていなければ、外に向けて情報発信やPRすることが難しい。また、外から来た人や移住した人から、この地域の良さや魅力を発信してもらう場や方法がない。

定住・移住を考えている人たちは、自分が欲しい情報をインターネットで検索して得ようとしている。就業や住む場所、子育てなど、こういうことが出来るというPRは非常に不足している。

それから、交流人口の拡大には、鶴岡を体験してもらう場や機会を多くつくる必要がある。地域産業や素材を掘り起こしながらの体験観光や就業体験など、体験をつくる場や受け入れる体制を整備する必要がある。体験をしたら終わりではなく、次につなげる方法や情報発信も必要である。体験にはコーディネートする人が必要であり、また来たいと思うような演出が大事である。

【課題解決に向けた提言】

移住を考えている人は、実際に移住した人の声を直接聞くことが最初のきっかけになる。その場合、インターネットは、どこにいても情報が直ぐ得られるのでうまく活用して、積極的な情報発信をする。

情報を発信していくためには、市だけでなく、企業、団体、市民が連携しながら取り組む必要があるので、それぞれが持っている情報を集めて、お互いに情報発信しあえる体制を検討する。

また、都会の人に対して観光を含めて行ってみようさせるため、地域住民が自ら地域の魅力を探り、それを自慢できる仕組みをつくる。

<具体的方策>

- ・インターネットで検索した時、鶴岡が検索されやすいキーワードや情報の入れ方など、検索の入口整備を検討する。
- ・UIJターンした人達からインターネットで、市の魅力や生活情報など、

発表できる仕組みを構築する。

- ・地域に住んでいる人が、鶴岡の良さを知る機会や、地域の資源や魅力を見つけるイベントや交流会といった、再認識できる仕組みをつくる。
- ・いろいろな情報を集約する拠点の整備を図るとともに、市、企業、団体、市民が連携し、市全体の情報発信力強化に努める。
- ・鶴岡の様々な魅力やふるさとの良さを対外的に、より効果的にアピールし、多くの観光客や交流人口の拡大に向け、ありきたりでないキャッチフレーズで、定住に向けてのシティセールスを推進する。
- ・体験する企画を、地元の人ではなく都市の人の視点で企画する仕組みを構築する。

3. 定住・移住・交流人口拡大に向けた、空き家等の利活用促進

【現状と課題】

人口減少の進行により、郊外地も市街地も、空き家や空き地のことが問題となっている。

一方で、移住や定住を考えている人や、一度県外に出た人が戻ってくる場合は家を探さなければならず、若い世代にとっては、家を求めたくても経済的な不安がある。

さらに、空き家だけでなく、商店街の空き店舗も課題である。また、小学校の統廃合により廃校となる学校や跡地の利活用について、地元でも検討しているが苦勞している状況がある。

【課題解決に向けた提言】

空き家の有効活用として、若い世代や移住者への住まいとして提供することを考えていく。また、若い世代が起業する時に、空き店舗などは有効なので活用を考える。外から人を呼ぶ時や、地域を活性化させる手段として、統廃合で廃校となる校舎の活用を探っていく。

＜具体的方策＞

- ・空き家を格安で借りられたり、特に若い世代が家を求めやすいよう、空き家などをリフォームして販売するような仕組みを検討する。
- ・商店街の空き店舗など、職や仕事の場として活用できるように検討する。
- ・地域住民にも優良空き家の情報を提供し、市も市民も地域の魅力と一緒に空き家の情報を発信して、空き家の提供につなげる。
- ・空き地を畑として利用できるようにし、地元の人に貸す仕組みを検討する。
- ・中山間地域で農業をしたい人に、空き家と農地を組み合わせで貸出すように、空き家とセットにした仕組みを検討する。
- ・廃校となった校舎の活用策として、民間企業やいろいろな法人などに情報提供を行い、宿泊できる施設や福祉施設などの利活用策の提案を受ける仕組みを検討する。

II 鶴岡地域審議会の開催状況

平成24年度

回数	開催日	内容
第1回	5月29日	<ul style="list-style-type: none">・本市予算及び主な事業の概要について・提言内容を踏まえた今後の進め方又は対応等について
第2回	8月6日	<ul style="list-style-type: none">・学校適正配置について・地域審議会協議テーマについて(全体会)
第3回	10月25日	<ul style="list-style-type: none">・各分科会での協議(分科会)・各分科会での協議内容報告(全体会)
第4回	11月14日	<ul style="list-style-type: none">・鶴岡市総合計画実施計画に策定について・地域コミュニティ実態調査の実施状況と課題について・各分科会での協議(分科会)
第5回	1月28日	<ul style="list-style-type: none">・今後の地域審議会の進め方について(分科会)・各分科会での協議(分科会)

平成25年度

回数	開催日	内容
第1回	5月22日	<ul style="list-style-type: none">・本市予算及び主な事業の概要について・今年度の地域審議会の進め方について・各分科会での協議(分科会)・各分科会での協議内容報告(全体会)
第2回	8月2日	<ul style="list-style-type: none">・鶴岡への移住者との意見交換・各協議テーマの具体的な方策について(分科会)
第3回	10月8日	<ul style="list-style-type: none">・各協議テーマの具体的な解決策・施策について(分科会)・各分科会での協議内容報告と提言に向けて(全体会)
第4回	11月25日	<ul style="list-style-type: none">・鶴岡市総合計画後期基本計画の策定について・鶴岡地域審議会の提言案について(全体会)

Ⅲ 鶴岡地域審議会委員名簿

任期：平成24年7月1日～平成26年6月30日

役職	所属団体・役職名等	氏名	備考
会長	鶴岡商工会議所 会頭	早坂 剛	
副会長	鶴岡市婦人会連合会 会長	齋藤 春子	
委員	鶴岡市町内会連合会 会長	山田 登	地域コミュニティ分科会長
委員	鶴岡市農業協同組合 代表理事組合長	今野 毅	産業経済分科会長
委員	鶴岡市自治振興会連絡協議会 会長	本間 仁一	
委員	出羽庄内森林組合 理事	土岐 純一	
委員	山形県漁業協同組合 常務理事	田村 勇次	
委員	鶴岡市観光連盟 会長	三浦 惇	
委員	(社福)鶴岡市社会福祉協議会 理事	茅野 進	
委員	鶴岡市民生児童委員協議会連合会 会長	竹内 峰子	
委員	鶴岡市PTA連合会 副会長	横山 真二	
委員	NPO法人 鶴岡市体育協会 会長	稲泉 眞彦	
委員	鶴岡市老人クラブ連合会 会長	後藤 輝夫	
委員	(公社)鶴岡青年会議所 副理事長	今間 智寛	
委員	鶴岡市消防団 団長	伊藤 俊昭	
委員	学識経験者	竹田 理英	
委員	学識経験者	丸山 絢子	
委員	学識経験者	菅 隆	
委員	学識経験者	奥山 春名	
委員	学識経験者	菅原 衛	

前委員

所属団体・役職名等	氏名	備考
前出羽庄内森林組合 理事	五十嵐 吉右衛門	H25.5.24 退任
前鶴岡市PTA連合会 副会長	若木 敬一	H25.5.13 退任
前(公社)鶴岡青年会議所 副理事長	佐藤 東一	H25.1.15 退任